
Knight Carnival！！ラウンド・ナイト・レディオ！！

アガギル・グレイン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Knight Carnival!! ラウンド・ナイト・レディ
オ!!!

【Nコード】

N6936P

【作者名】

アガギル・グレイン

【あらすじ】

この小説はKnight Carnival発売を記念して発作的に書いたものです。まあ暇つぶし程度に読んでもらったら、嬉しいです。

(前書き)

この小説は作者が発作的に書いたものです。
もし評判がよかったら、不定期ながら更新していこうと思っています。
それではどうぞ!!

某場所にて……

サリエル「……なあ？」

作者「何だ？」

サリエル「何でこんなラジオブース的なところにいるんだ？」

作者「……それはな」

ガサゴソ……

(。▽。) つ『Knight Carnival! 発売記念!! ラジオで宣伝しながら、おもしろおかしくやっていこう企画!!』

サリエル「……はあああつ!？」

作者「そういうことから、よろしくな。ちなみにお前はメインパ―ソナリティだからな。」

サリエル「いや、そういうのって拒否権が!？」

作者「作者権限にて拒否権発動は無効にします。それともうすぐア―サーとランスロットも来るからな？」

サリエル「・・・マジで言ってるの？」

作者「モチのロン！！評判がよかったら、連載するかも知れないぜ？」

サリエル「一つでヒイヒイ言っているのにこの駄作者は・・・」

ガチャ・・・

アーサー「サリエル、話があるって聞いたんだけど？」

ランスロット「私もだ。大事な用とは何だ？」

サリエル「来ちゃったよ・・・っていうか、おまえ、どうやって呼んだんだ？」

作者「サリエルが大事な話があるからここに来てくれ・・・って言った。」

サリエル「・・・すまない。それは嘘だ。」

アーサー&ランスロット『なんだと！？騎士としてあるまじき行動！！』

。。。。(D、(C)。(D。つ)

サリエル「俺が言った訳じゃないし、この作者が・・・ぎゃあああ
あっ!？」

作者「また一人・・・勇者がいなくなったか・・・」

アーサー「で、作者よ。一体何の用なのだ？」

作者「実はな・・・かくかくしかじか」

ランスロット「Knight Carnivalの発売記念にラジ
オで宣伝しながら、おもしろおかしくやるだど!?! 冗談じゃない!
!」

作者「ちなみに、二人もメインパーソナリティだからね。」

アーサー「帰らせてもらう!! 何が悲しくてこんな事を・・・」

作者「逃げ出した方にはもれなくカレドヴルフにむりやりあんな事
やこんな事をされてしまう権利がつきまゝす。」

アーサー&ランスロット『!?!』

作者「それでもよかったら、逃げてもどうぞ?」

ランスロット「・・・逃げるのは騎士として屈辱だ。いいだろう、
やってやろうじゃないか!!」

アーサー「ランスロットがそういうなら私も・・・」

作者（そんなにカレドヴルフにされるのがいやなんだ・・・）

サリエル「うゝん・・・ひどい目にあった・・・」

作者「起きたか？二人とも了承してくれたから、さっさとタイトルコールしろ。」

サリエル「マジでやるのか・・・えゝと、タイトルは・・・」

『Knight Carnival!! ラウンド・ナイト・レディ
オ!!』

第0回 発作的に書いた!!だが、後悔はない!!

アーサー「この番組はKnight Carnivalの発売を記念して、作者が発作的に書いたものである。メインパーソナリティのアーサーだ。」

ランスロット「そのため、こいつばかだなあ・・・と軽い気持ちで見تمくれたら嬉しい。同じくランスロットだ。」

サリエル「ちなみにこの番組の狙いはKnight Carnivalの宣伝と魔法少女リリカルなのはStrikers 蒼の重騎士の再誕の宣伝らしいぞ。サリエルだ。」

作者「番組進行補助の作者です。今回は参加しますが、次からは補助に徹しようと思っています。ちなみに現在ラジオの原稿を書きながらお送りしています。」

サリエル「原稿書きながら!? どんだけ、低予算でやってんだよ!」

アーサー「相談してくれたら、それなりの詩人を紹介したのに……」

ランスロット「いや、さっきまでやらないって言っていたじゃん! ? それに詩人って……」

作者「このラジオはナ○メブラ○ーズを参考にしていますので、本来ならばタイトルコール前に称号を決めるのだが……初回と言うことで無しです!!」

サリエル「称号?」

作者「お前らみたいに『蒼の重騎士』や『湖の騎士』のをリスナーの皆さんからつけてもらうんだよ。」

アーサー「それだけか? 何もおもしろくないじゃないか?」

作者「いや、つけられた称号は今日の行動を決定させるようなものだから……例えばアーサーに『口癖が「ですよね☆」』がつけば、ラジオ中はずっとその称号に従わなければいけないぞ? ついでに今からな?」

アーサー「えっ、今から!? ちょっと待ってっ」

作者「違うだろ? そこは……」

アーサー「ですよね☆……何だ、この頭の悪い子が言う口癖は

（汗）

サリエル「やべえ！！めっちゃ面白いんですけど！！」

ランスロット「・・・」

アーサー「サリエル！！指を差して笑うな！！ランスロット、やめてくれ！？そんな同情するような目は！！くそっ、なぜ私がこんな事を・・・」

作者「まあ、それがタイトルコール前にやってもらうことで、どうぞ最後までお聞きください。」

サリエル「で、原稿には・・・この番組は母の仕送りでお送りします。っておい！？」

『円卓会議！！』

作者「このコーナーはリスナーが送ってきてくれたお題について三人が騎士らしく挑んでいくコーナーです。」

ランスロット「・・・実に安直なコーナー名だな。」

サリエル「ツツコんでやるな。作者の文才の無さは今に始まった事じゃない。」

アーサー「ですねよ☆」

作者「無視」今回は初回と言うことで何もお便りが来ていないので・・・俺から出します!!」

(。▽。) つ 「騎士はこうであれ!!」

アーサー「忠義と礼節だな。」

ランスロット「義理と勇氣、慈愛だ。」

サリエル「即答ですね・・・うゝん、やっぱり強さだな。弱かったら面子が立たねえからな。」

作者「サリエルは現代人だから・・・しかしまあ、アーサーとランスロットはよくぬけぬけとそんなことが言えるな?」

アーサー&ランスロット『えっ?』

作者「アーサー王伝説は騎士道精神の模範として語られているが、中身はドロドロの不倫関係が蔓延している騎士道精神とは真逆な物語だぞ?」

アーサー&ランスロット『うつ・・・』

サリエル「確かに・・・ランスロットはアーサーの妻、グイネヴィアと不倫しているし、アーサーはアーサーでコーンウォール王の妻

に不倫しているし・・・」

作者「他にもたくさん不倫している騎士が多いしな・・・人間味あふれると言えば、よく聞こえるが・・・ちよつとフォローしきれないな。」

アーサー「ま、まあ、このコーナーの趣旨は理解してもらったと思う!!」

ランスロット「だから、リスナーの皆さんは私たちに語って欲しいお題をじゃんじゃん送ってきゅれ!!」

サリエル「・・・誤魔化した上に動揺している(汗)」

作者「戸惑いこそ人生だよ。」

サリエル「どこぞの冥王みたいに、語ってんじゃねえ!!」

アーサー「ですよね☆」

ランスロット「・・・だんだん痛くなってくるな。」

アーサー「うううう・・・」

サリエル「以上、円卓会議のコーナーでした!!」

少年は・・・強くなりたかった。

しかし、罵倒され、脅され、利用され、そして・・・挫折した。

腐っていたその少年は・・・機動六課に転属し、一体何を見つけるのか・・・

魔法少女リリカルなのはStrikers 蒼の重騎士の再誕 好評連載中。

現在アニメ七話の部分まで進行。挫折した少年が立ち上がっていく姿に注目しろ!!

「カムランの決闘!!」

ランスロット「このコーナーはリスナーから送られてきた決闘種目を私たちが全力でやっていくコーナーだ。」

アーサー「一番成績が悪かったパーソナリティには罰ゲームが待っているぞ!!」

サリエル「・・・で、初回の今回は一体何すんの？」

作者「そうだな・・・とりあえずウケ狙うか。」

（。D。）っ「一発芸!!」

三人『はああああっ!?!』

作者「審判は普段ならリスナーにしてもらうが、今回は俺が偏見と独断で審判させてもらおうわ。」

アーサー「そ、そんな・・・急に一発芸と言われても・・・」

サリエル「俺は現代人だから思い出せばあるけど・・・ランスロットとかきついだろ?」

ランスロット「こんなことで恥かくくらいなら、カレドヴルフにされる方がマシだ!!」

作者「あ、そう。じゃあ、呼ぼうか?」

ランスロット「えっ?」

作者「カレドヴルフ!!!お願いしまゝす!!!」

ピンポーン・・・現在電波が乱れております。しばらくお待ちください。

〔BGM…永遠〕
シエリル・ノーム

ランスロット（恍惚）「んはあ・・・はあん・・・ああ・・・」

作者「さて・・・お仕置きも終わったことだし、時間が空いたから思いついただろ?」

アーサー「作者に逆らったら、あんな風になるんだ・・・（ガクブル）」
サリエル「ちなみに、俺の場合は？」

作者「そうだな・・・なのはとO☆H A☆N A☆S H Iだな。」

サリエル「やめろおおお~~~~~!!?」

アーサー「ああ!? サリエルが半狂乱に!? そんなにO☆H A☆N A☆S H Iというのは怖いのか!?」

作者「受けてみたらわかるよ。それではアーサーからどうぞ!!」

アーサー「あつ、いや、ちょ・・・ごほんっ!・・・エクスカリバアアアアアアッ!!」

ランスロット（復活）「名前ネタ禁止iiiiiiii!?!」

作者「超メジャー所から持ってきたな・・・まさかのセイバーネタ。」

アーサー「あつ、今もう一つ思いついたぞ!!・・・お猫様♪」

ランスロット「中の人ネタ禁止iiiiiiii!?!」

サリエル「ふう・・・ふう・・・またメジャー所のネタじゃん。しかもお猫様って・・・」

アーサー「ですよね☆」

作者「・・・可愛いを通り越して、さすがに痛くなってきたな。」

アーサー「うううう~~~~（涙目）」

ランスロット「じゃあ、次は私が行くぞ・・・（黙）」

サリエル「・・・なぜ、黙っているのだ？」

ランスロット「・・・ーーー!!」

アーサー「ランスロット!？」

作者「奇妙な叫びを上げながら、いきなりアーサーに挑んでいった!？」

サリエル「完璧に名前ネタだな。しかも、微妙にわかりづらい。」

ランスロット「しょうがないだろ!?! 他に何をしろって言うんだ!？」

作者「ランスロットが今のところ、一番面白くなかったな・・・」

ランスロット「~~~~~!？」

サリエル「最後は俺だな・・・お前達が俺の翼だ!!!」

作者「モノマネだし、イメージネタだから却下。」

サリエル「ちっ・・・じゃあ、俺の剣技は108まであるぞ!!!」

作者「・・・で？」

サリエル「例えば、斬ると水が出て血糊がつかなかったり、剣先からビームが出たり、雷を落とすことができるんだぜ！！」

アーサー「そ、それはすごいな・・・」

作者「バカ、別にすぐくねえよ。里見八犬伝の村雨にゼルダの伝説・ムジュラの仮面の鬼人リンク、テイルズシリーズの襲爪雷斬だろ？」

サリエル「ちつくしよ～～～！？」

作者「じゃあ、一番面白くなかったサリエルに罰ゲームだな。ちょっと相談するから、待っていてくれ。」

アーサーとランスロットと相談中・・・

作者「よし、決まったぞ！！まずこの袋の中にあるものに替えてくれ。」

サリエル「・・・展開が読めているが、罰ゲームだからな・・・はあ。」

サリエルお着替え中・・・

アーサー「・・・意外にたくましいのだな？」

ランスロット「線が細いように感じるが・・・でも、引き締まっていい体をしている。」

サリエル「あの・・・そんなに見つめないでください／＼／」

作者「鍛えさせていますから・・・おっ、終わったようだな。」

サリエル「・・・作者、ぶっ殺していい？」

ランスロット「ブッ!? アーサーの格好!？」

アーサー「しかも結構似合ってる!？」

作者「イメージキャラがイメージキャラだから、女装が映えるな!」

アーサー「ですよね☆」

ランスロット「うむ。」

サリエル「・・・インフィニティ・ブレイカー!！」

作者「ちよ、本編でも使わないような技ぐにゃああああああっ!」

作者滅殺・・・

アーサー「・・・もはや、人としての原型を残っていないほど碎かれたか。」

ランスロット「このぐらいがちようどいいだろ。サリエル、早く着替えてラジオを終わらせよう。」

サリエル「・・・脱げない（汗）」

アーサー＆ランスロット『えっ？』

サリエル「ぴっちり固定されていて脱げないんだ（涙）」

アーサー「ですよね☆」

ランスロット「ここでその口癖は罵倒している他ないぞ（汗）」

アーサー「い、以上カムランの決闘でした！！」

サリエル「どうでもいいから、着替えさせて・・・」

アーサー「さて、そろそろお別れの時間が近づいてきました。あぁ・・・疲れた。」

サリエル（女装）「慣れないことをしているからな。俺だって疲れた。」

ランスロット「今日で私は・・・大事なものをいくつか無くしたような気がする。」

作者（再生中） 「人は無くす物が多いほど強くなっていくものだよ。」

ランスロット 「・・・その碎かれた姿でしゃべられると非常に怖いのだが・・・」

サリエル（女装） 「気にしたら負けだ。えーと、原稿には・・・他にも二つくらいコーナーを考えていますが初回ということでカットさせていただきます。」

アーサー 「勢いで書いていたみたいだけど・・・連載するのかな？」

ランスロット 「連載化すれば、毎回何か大切なものを失わないといけないのか・・・」

サリエル（女装・・・女性ですよね？） 「そんなこともないわよ？ランスロットが頑張れば、作者もいろいろしてこなくなるって・・・って俺は女じゃない！！」

アーサー 「その根拠は？」

作者（再生完了） 「ランスロット萌えろ！！俺の嫁です！！」

ランスロット 「誰が貴様の嫁なんぞに！？」

作者 「せっかく再生したのにアロンナイトで斬るのはうばああああっ！？」

作者惨殺・・・

アーサー「何という浅はかな理由・・・」

サリエル（女せ・・・女装）「作者曰く、恋姫＋無双の孫策と一緒に
くらい愛しているらしい・・・キモすぎるわ!!」

アーサー「ですよね☆」

ランスロット「アーサー・・・もうやめといたらどうだ?（哀）」

アーサー「ですよね☆（涙目）」

サリエル（女性）「女じゃねえって言ってんだろ!? もう半分壊れ
ているな・・・」

ランスロット「完全に壊れる前にラジオを終わらせよう。お相手は
『湖の騎士』ランスロットと・・・」

サリエル（女性）「・・・『蒼の重騎士』サリエル・フォーゼオン
と!!」

アーサー「『口癖が「ですよね☆」のアーサーでした!!」

三人『バイバイ』

作者「取り残された感が・・・進行補助の作者でした。ちなみに
評判がよかったら、不定期だけど更新していくぞ!!」

(後書き)

どうでしたか？書いていくうちに、自分のギャグセンスの無さにちよつと凹みました
もし連載して欲しいという声があれば、不定期ながら更新していきたいと思つてます。

それでは〜♪

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6936p/>

Knight Carnival！！ラウンド・ナイト・レディオ！！

2010年12月25日17時40分発行